

**平成 31 年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和元年 12 月
海老名市立今泉中学校**

平成 31 年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

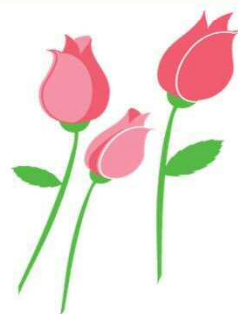
- (1) 教科に関する調査（国語，算数・数学，英語）
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

平成 31 年4月 18 日（木）



中学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ
- ・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える
- ・文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考え方をもち
- ・封筒の書き方を理解して書く
- ・話合いの話題や方向を捉える
- ・相手に分かりやすく伝わる表現について理解する
- ・話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ
- ・書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する
- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く
- ・語の一部を省いた表現について、語や文章の中での適切な活用の仕方を理解する

本校の調査結果

◆比較的できている点

- どの領域もバランスよく知識を習得することができている。
- 短歌について自分の考えを記述する問題の正答率が高い。

◆課題のある点

- 「封筒の書き方」の問題での正答率が6割で、ほかの問題と比べ、正答率が低い。
- 「書く能力」に対する問題での正答率が、全国の平均を下回るものがある。
- 記述式の問題に対する解答方法の仕方で、不適切なものがあり、課題が残る。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 手紙の書き方など日常生活に関わる事柄について積極的に指導をしていく。
- 課題作文などに多く取り組み、積極的に文章を書く課題に取り組む。
- 記述式問題の答え方についての理解が低いので、文章を書かせながら取り組む。

中学校 数学

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・数の集合と四則計算の可能性について理解している
- ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる
- ・平行移動の意味を理解している
- ・反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる
- ・簡単な場合について、確率を求めることができる
- ・グラフ上の点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差を、事象に即して解釈することができる
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる
- ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している
- ・反例の意味を理解している
- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる
- ・資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
- ・問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる
- ・与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる
- ・事柄が成り立つ理由を説明することができる
- ・統合的、発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる

本校の調査結果

◆比較的にできている点

○数の集合と四則演算の可能性について、他の問題に比べて正答率が高く、理解しているといえる。また、証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題は全国正答率に比べても高い正答率となっている。

◆課題のある点

○資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題に関して、課題がある。また、 a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ問題は全国正答率に比べて、低い正答率となっている。

今後の具体的な指導改善のポイント

○計算問題の正答率が高かったので、引き続き計算力を高められるように数多くの演習問題に取り組む。文章を読み取って問題を解く問題の正答率が低かったので、類似問題に取り組む。また、説明する問題の正答率が低いので、授業の中で自分の考えを発表する場面を多くしていく必要がある。

中学校 英語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる
- ・教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる
- ・日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる
- ・まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる
- ・まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる
- ・聞いて把握した内容について、適切に応じることができる
- ・日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる
- ・まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる
- ・まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる
- ・書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる
- ・文の中で適切に接続詞を用いることができる
- ・一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる
- ・一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる
- ・与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる
- ・与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる
- ・与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる
- ・月日に関する基本的な表現を理解して、応答することができる
- ・基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することができる
- ・適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができる
- ・聞いて把握した内容について、やり取りすることができる
- ・与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 県平均・全国平均よりも、どの領域においても正答率が高く、バランスよく知識を習得することができている。
- 英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題や指示を聞き取る問題の正答率が他の問題と比較して特に高い。

◆課題のある点

- 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く問題の正答率が低い。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 与えられた情報に基づいて、自分の考えを整理し、文章にする活動を行う。

生徒質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 「読書が好き」と答えた生徒が全体の8割強を示し、県・全国平均を大きく上回っている。
- 「学校の授業以外で、月～金曜日に1日あたり1時間以上勉強している」と答えた生徒が全体の7割以上を示し、県・全国平均を上回っている。

◆本校の課題と思われるところ

- 「家で、自分で計画を立てて学習している」と答えた生徒が全体の4割強であり、学習塾や家庭教師に教わっている以外の時間を、自ら計画し、学習に取り組むことができていない生徒が多い。
- 「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」と答えた生徒が県・全国平均を下回っている。

生活について

◆本校のよかったところ

- 「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と答えた生徒が全体の9割弱を示し、県・全国平均を大きく上回っている。
- 「自分には、よいところがある」と答えた生徒が全体の7割強を示し、県・全国平均を上回っている。

◆本校の課題と思われるところ

- 「家の人と学校での出来事について話をする」と答えた生徒が全体の7割であるものの、県・全国平均を下回っている。
- 「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒が全体の6割強であり、県・全国平均を下回っている。

今後の具体的な取組について

- ◇学校教育目標「地域とともに生き、たくましく、しなやかに未来を拓く生徒の育成」を目指し、地域や家庭との連携をさらに深めていきます。
- ◇校内研究の柱として取り組んできた「自分を大切にし、他の人を大切にする心の育成」を目指した教育活動を継続し、さらに充実した活動にしていきます。
- ◇情報リテラシー教育をさらに進め、情報に流されず適切にそれを活用する能力を伸ばしていきます。また、保護者会や学校便り等で、家庭への協力を繰り返し呼びかけていきます。
- ◇系統的なキャリア教育の推進を目指し、生徒が将来の夢を持ち、その具現化に向けて主体的に取り組もうとする姿勢の育成に努めていきます。

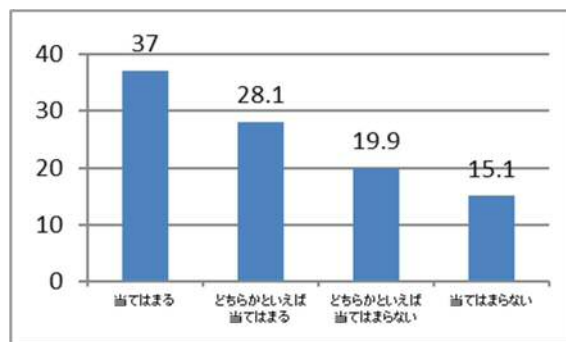
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の生徒質問紙の結果です。

1

お子さんと夢や目標について語り合いましょう。

夢や目標を明確に設定することで、生活を改善する力や学ぶ力が高まります。

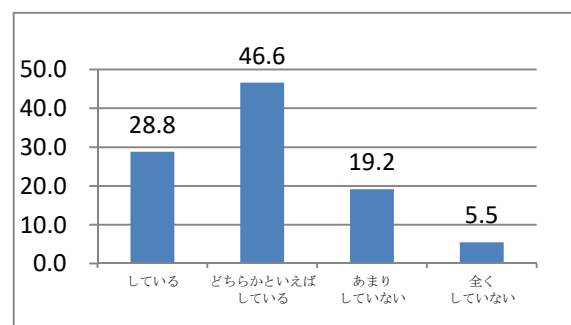


将来の夢や目標を持っていますか

2

規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

「元気なえびなっ子プラン」として、市をあげて実現に向けて取り組んでいる内容です。今後も、ご家庭での協力をお願いします。

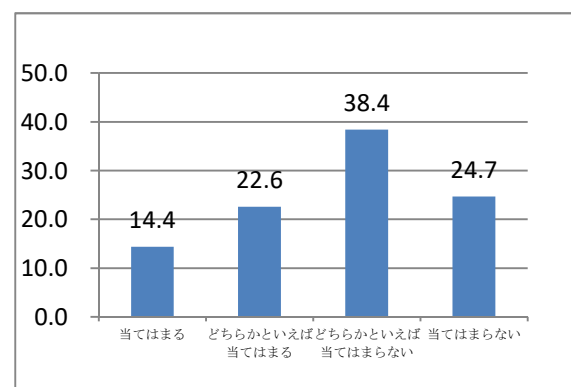


毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

3

地域や社会について、家族で話し合いましょう。

少子高齢化、核家族化、地域の教育力の低下への対応として、地域が果たす役割への期待が大きくなっており、地域のつながりの重要性がますます高まっています。

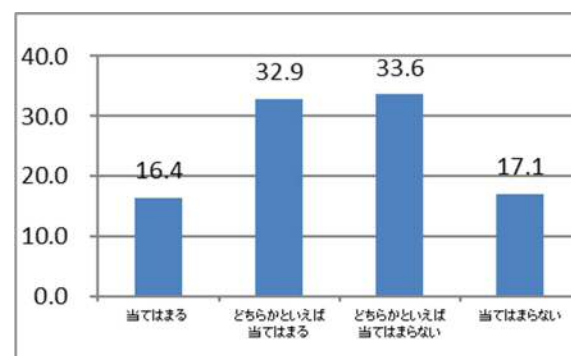


地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

4

地域の活動に積極的に参加しましょう。

経済・社会環境や人々の意識の変化に伴い、地域のつながりが希薄化したと言われています。地域におけるボランティアや市民活動が、新たなつながりとしてとても大切です。



今住んでいる地域の行事に参加していますか

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【学 校 生 活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人とは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に興味がある

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

結果の公表にあたって

- 公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。
- 公表することによって、保護者や市民の皆様により市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。
- 「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係